

## 日本未熟児新生児学会 平成22年度 総会議事録

日 時：平成22年11月5日（金）13：00～13：30

場 所：神戸国際会議場 B1階 メインホール（第1会場）

### 議 事

#### I. 報告事項

##### 1. 理事長挨拶（戸荊理事長）

##### 2. 会長挨拶ならびに報告（船戸会長）

会長より挨拶があり、新しい企画である Meet the professors と若手教育セミナー「今日からあなたも新生児科医」への参加が呼びかけられた。

##### 3. 庶務報告（本間幹事）

###### • 新入会者、退会者の件

会員数（全会員数3,173名、名誉会員22名、功労会員43名）、新入会員295名、退会204名について報告が行われた。

###### • 会費滞納者の件

資格喪失退会者89名（平成21年報告数：81名）について報告された。平成20年以降会費が未納で、2月請求後、9月に再請求を行ったが、10月末現在振込が確認されていない。12月末日までに振込が無い場合には資格喪失退会となる。物故会員・松本憲則先生の黙祷が行われた。

##### 4. 各種委員会報告

###### 1) 日本未熟児新生児学会賞選考委員会（戸荊委員長）

6月に学会賞選考委員会を開催した結果、平成21年度日本未熟児新生児学会賞受賞論文が決定し、第2回理事会にて承認された。受賞者の松村寿子先生には、1時30分から記念講演を行っていただく。

###### 2) フェロワーシップ選考検討委員会（戸荊委員長）

• 今年度のAJフェロワーシップ採用者は20名であった。懇親会には14名が出席予定で、会期中にそれぞれ演題を発表される。該当演題には抄録集・プログラム集の中に★印をつけ、懇親会会場および演題発表時には「AJフェロワーシップ」と書かれた赤い名札を付けているため、見かけられた際には温かい声かけをと呼びかけられた。

• 佐多フェロワーシップ今年度採用者の高寺明弘先生には本日13：50～14：00に「英国留学で得たもの」と題して留学体験記をお話いただく。

###### 3) 雑誌編集委員会（堺委員長）

年3回雑誌を刊行している。今年も問題なく進められた。

###### 4) 社会保険委員会（小泉委員長）

平成24年度の改定について検討している。12月10日が締め切りのため、ご要望があれば連絡してほしい。

###### 5) 薬事委員会（伊藤委員長、新生児の輸血問題小委員会：小山委員長）

PDAのインドメサシン製剤の供給問題については、日本では、MSD（旧万有製薬）が製造できるようになったため、フィルターの使用は不要になった。

K<sub>2</sub>シロップの個別包装については、板橋理事とともに厚労省に要望を伝えているが運用方法についてはま

だ未定である。

- 6) 医療器材の安全性確認委員会（本間委員長）  
有害事象，安全性に関わる情報提供をホームページで行うことを検討している。
  - 7) サーベイランス委員会（山内委員長）  
毎号の学会誌に挟み込んであるサーベイランス登録をぜひお願いしたい。
  - 8) 規約改定委員会（宇賀委員長）  
法人化に向けて現在検討を進めている。
  - 9) 学術集会の在り方検討委員会（三科委員長）  
学術集会のアンケート結果をホームページで公開しているのでぜひ見ていただきたい。今年度のアンケートは，webで行う予定である。
  - 10) 広報委員会（堀内委員長）  
ホームページの作成を行っている。今回は抄録がダウンロードできるようになっている。来年度大幅リニューアルを検討している。そこでは会員自身で住所変更等が可能となる予定。
  - 11) 教育委員会（田村委員長）  
8月26～28日琴平で伊藤教授の実行委員長のもとセミナーを開催した。来年は8月25～27日，中村友彦先生を実行委員長に迎えて，長野にて開催予定。講師・テーマについて教育委員会で検討を行っている。
  - 12) 倫理問題検討委員会（船戸委員長）  
「話し合いのガイドライン」が浸透してきたので，位置付けを検討していきたいとの報告があった。
  - 13) 医療の標準化検討委員会（楠田委員長）  
PDA，小児・新生児におけるエンドトキシン除去療法のガイドラインを学会誌・ホームページに掲載しているので見てほしい。
  - 14) 医療提供体制検討委員会（梶原委員長）  
発足して2年になるが，明日，委員会主催で特別シンポジウムを開催する。ぜひ参加してほしい。
  - 15) その他
    - ・「周産期医療の質と安全の向上のための戦略研究」に向けたフェージビリティ研究について（豊島会員）  
戦略研究は厚生労働省が運営する大型臨床研究で総合周産期医療が選ばれている。今年は準備段階の1年で採用が決まれば5年間の大型研究が始まる予定である。総合周産期をもとに内容は標準化の導入，人材の育成，ガイドラインの導入と実践，組織の運用，組織改革などのワークショップ等を研究目的にしている。会場に協力を呼びかけた。
  - 16) 感染対策・予防接種推進室  
インフルエンザ関連の動きの中で本学会からの要望が届かなかったことなどから発足した。今年は昨年度のデータをまとめたものが特別発表で報告される。
5. 新／名誉・功労会員の件（戸荊理事長）  
理事会で推薦された9名の先生方が評議員会にて承認されたことが報告された。
  6. 役員選挙の件（戸荊理事長）  
告示日11月8日（月）／投票締め切り12月1日（水）／開票12月2日（木）午後3～6時として役員選挙を行う。評議員会・総会で承認された次期評議員211名の中より15名の理事，2名の監事を選出し，年内または年明けに新理事会を行う予定である。

## II. 協議事項

- 1) 平成 21 年度決算に関する件  
資料に基づき、本間幹事より報告された。安次嶺監事より、仁志田監事と共に監査をした旨報告があり、承認された。
- 2) 平成 23 年度予算に関する件  
資料に基づき、本間幹事より説明・報告があり、承認された。
- 3) 次期評議員に関する件  
平成 23～25 年度の新評議員 211 名につき、承認された。
- 4) 次期会長に関する件  
先ほどの評議員会で次期会長に推薦された楠田 聡理事（東京女子医科大学母子総合医療センター）が承認された。
- 5) 次期副会長に関する件  
次期副会長に近藤裕一理事（熊本市立熊本市市民病院総合周産期母子医療センター新生児科）が承認された。

## III. 新 / 会長・副会長挨拶

次期会長：楠田 聡理事（東京女子医科大学母子総合医療センター）

11 月 13 日～15 日に開催されることが報告された。

次期副会長：近藤裕一理事（熊本市立熊本市市民病院総合周産期母子医療センター新生児科）

九州では 30 年以上開かれていないため、盛会にしたいとの挨拶があった。

## IV. 感謝状の贈呈

新名誉会員の安次嶺 馨先生、小泉武宣先生、仁志田博司先生、藤村正哲先生、堀内 勁先生、新功労会員の三科 潤先生に感謝状が贈呈された。

ご欠席の山内芳忠先生、宇賀直樹先生、須永 進先生には後日郵送の予定。

各先生方のご挨拶：

安次嶺 馨先生：沖縄から新生児医療について発信できた実感している。台風の心配をしながら海を渡ったことが懐かしく思い出される。

小泉武宣先生：良い時期に新生児医療に携わることが許されて幸せであった。今後は血液センターから、周産期の血液問題について関わっていきたい。

仁志田博司先生：新生児医療の歴史については『ネオネイタルケア』に掲載されているのでぜひ読んでほしい。来年度の学会のテーマである「新生児の声」を聞くということはとても大切だと実感している。

藤村正哲先生：本学会に育てられて、卒業していくことを実感している。卒業生として今後も学会のお役に立てることを願っている。

堀内 勁先生：本学会には研究会時代から参加していて深く感謝している。親がいかに自分のこどもに没頭できるか、没頭される対象としての赤ちゃん、この組み合わせへのかかわりがこれからの新生児医療でより重要になると考えている。人間科学も大きく取り入れた新生児医療を進めていただきたい。

三科 潤先生：新生児医療を始めてから学会にはいつも勉強させていただいた。今後も何かあればお役に立ちたいと思っている。

## V. 学会賞受賞者への賞状の贈呈

大阪市立総合医療センター新生児科の松村寿子先生に賞状と賞金が贈呈された。